

未来

郵政産業ユニオン
PIWU
全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙 「みらい」
NO. 3950
19年4月19日(金)
Tel/Fax 095-828-1953

天皇の大権か 国民主権か!

おはようございます。

現天皇の退位で平成が終わり、新天皇の即位で、令和が始まる。テレビも朝から晩まで、天皇が伊勢神宮参拝で、退位の報告をした、とかのニュースで、市民も提灯行列で歓迎している。まさに皇室フイーバーで、政府も十連休法でこれを煽る。

おかげで五月一日のメーデーなど吹き飛び、長崎の連合も今年は一日の開催をしない。

日本の主権者は国民である。これは一九四六(昭和二十一年十一月三日)に公布された現憲法に明記してある。

憲法の前文は、「日本国民は…この憲法を確定する」とある。主語が国民であることが大事だ。一方、一八八九(明治二十二年二月十一日)に制定された旧憲法(大日本帝国憲法)では、告文に「皇朕謹み」と制定の主語は天皇である。この違いが旧憲法と現憲法の最大の違いであり、その性格を規定する。

明治の初め、日本は憲法制定のために伊藤博文などを欧州へ派遣した。その憲法制定会議の最終局面で、森有礼(伊藤内閣での初代文部大臣)が「臣民の権利義務」を「臣民の分際」とせよと迫る。議長は伊藤は、「憲法を制定する精神で、臣民の権利を記載しなければならない」とこれを却下し、「臣民の権利」という言葉が、日本で初めて憲法に書かれた。

しかしこれも、公共の安寧を犯さずとか、法の許す限りという制限が多く、のちの治



歴史的に言えば、このときはまだ戦争が続いていた。わかりやすくいえば、日本は国連と戦争をしていたのである。無論、国民はこのことを知らされていなかったが。

その後、五月七日にドイツが無条件降伏し、七月十七日に連合国軍は日本に降伏勧告のポツダム宣言を出す。日本は国体擁護(天皇制の維持)の明記がないことを理由に、これを「黙殺」する。

昭和二十年の始め、軍部以外に戦争の敗北必至という判断で、早期終結を求めたが、

安維持法などにより、権利は死語となり、戦後まで個人は人権をもてなかった。

現代世界は、第二次世界大戦中にできた国際連合が作った国連憲章にある。国連は、一九四五(昭和二十〇)年十月二二日に正式に発足する。参加国は五一ヶ国であった。



またソ連の参戦がなければ、満州国の悲惨な事件や、引き揚げの中での中国残留孤児もシベリア抑留も、また北方領土(千島列島)の割譲問題もなかったのである。

これから見ても、戦争の開始はともかく、より大事なことは、終戦の決断(歴史的には天皇の聖断と書く)の遅れが、現在の日本の周辺国との諸矛盾を起こさせた要因となっているのである。(小学院、日本の歴史から)

現在、安倍首相はこの連合国軍のポツダム宣言を「つまびらかに」読んでいない」と国会で答弁している。

宣言は十三項目、千三百字余りである。全文を読んでも五分と掛からない。いま日本ではこの宣言の中身を教えない。

そこで投降勧告以降の日本をどうするのかで、ポツダム

軍部の強行に負けて、天皇の決断が遅れ、広島、長崎の原爆投下まで、終戦が遅れる。

この七月に終戦の決断があれば、ソ連の参戦もなく、無論、原爆の投下もなかった。なぜなら原爆の完成は七月二十六日であり、ポツダム宣言より後だったからである。



それを現代の日本のトップが、この文書を「読んでいない」と言い放ち、その歴史の意味を否定する態度は、歴史の修正主義者との非難も起こるし、現在の近隣諸国との様々な摩擦も、解決を困難としている。

宣言の大事な項目を一つだけ書く。

その⑩だが、「我々は、日本を人種差別し、奴隷化するつもりもなければ国を絶滅させるつもりもない。しかし、われわれの捕虜を虐待した者を含めて、全ての戦争犯罪人に対しては厳重なる処罰を行うものとする。日本政府は、日本人の間にも民主主義的風潮を強化し、あるいは復活するにあたって、障害となるものは排除する。言論、宗教、思想の自由及び基本的人権の尊重が確立されなければならない」。

結論を言えば、戦争と軍国主義に決別し、日本が国民の基本的な人権を基礎とする民主主義国家へ生まれ変われ、と書いている。

そしてより大事なことは、日本はこの宣言を受諾し、無条件降伏し、九月二日に、東京湾の米艦のミズリー号艦上で降伏文書に署名し、十五年戦争は終わったのである。



いま読めば、なにも問題はないほどの普通の国の体制を書いているが、明治の大日本国憲法で、神である天皇の臣民として、権利を押しつけてきた古い人々から見ると、国民主権という言葉と思考は、まさに天と地がひっくり返るほどの驚きであったのだ。

国民主権はこのように、日本人の戦死者三百万人の犠牲の上にできた平和憲法の基本中の基本なのである。

最後に、旧憲法で「国民の権利」を否定し、「臣民の分別」と変えられた森有礼文部大臣にしても、この直後、右翼に暗殺される。その理由が、森の伊勢神宮参拝で不敬な態度があったからだと言われている。本もある。



神である天皇の君権を掲げた明治憲法と、国民主権を明記する現在の平和憲法。わずか百五十年の歴史の出来事である。

天皇の生前退位、改元、新天皇の即位。まさに皇室フイーバーの中、権利はたたかいつづけてこそ守られるという歴史家の言葉を、いま改めて胸に刻む。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共同回復して闘おう。

期間雇用社員の労働者全員の団結を促す。

なにかの法律違反、なにかの権利侵害、とにかく労働者全員の団結を促す。